

第7回 駿河湾・伊豆海嶺地域研究集会
－ 駿河湾の観測 －

共 催：水産海洋学会，東海大学海洋学部，東海大学海洋研究所
日 時：2015年3月2日（月） 13：00－17：00
場 所：東海大学海洋学部8号館8405教室（静岡市清水区折戸3-20-1）
コンビナー：植原量行・萩原直樹（東海大海洋）

挨拶	和田時夫（水産海洋学会長）	13:00-13:10
趣旨説明	植原量行（東海大海洋）	13:10-13:20
話 題		
1. 駿河湾の海況モニタリングについて	座長：萩原直樹（東海大海洋）	
(1) 駿河湾海況モニタリングに関する今後の観測展望		13:20-13:40
－ 静岡県と東海大海洋学部のコラボに関する一提案	植原 量行（東海大海洋）	
(2) 静岡県水産技術研究所の行う海洋観測について		13:40-14:00
高木康次（静岡県水技研）		
(3) 人工衛星による駿河湾観測		14:00-14:20
田中昭彦（東海大海洋）		
2. 駿河湾の観測の試み	座長：小松大祐（東海大海洋）	
(4) 駿河湾における海洋生態系研究プロジェクト「SURUME」の立ち上げ		14:30-14:50
西川 淳（東海大海洋）・松浦弘行（東海大海洋）・宗林留美（静岡大理）・		
吉川 尚（東海大海洋）		
(5) 係留式 ADCP の散乱強度を用いたサクラエビ研究の展望		14:50-15:10
勝間田高明（東海大海洋）		
(6) 富士山の湧水の駿河湾低次生産への影響		15:10-15:30
萩原直樹（東海大海洋）		
3. 駿河湾の観測計画	座長：宗林留美（静岡大理）	
(7) 駿河湾における熱・水収支導出の試み		15:40-16:00
轡田邦夫（東海大海洋）		
(8) 駿河湾フェリーの ADCP 観測から見積もる湾奥海水交換		16:00-16:20
仁木将人（東海大海洋）		
(9) 駿河湾の海底湧水：その海洋生態系へのインパクト		16:20-16:40
成田尚史・小松大祐（東海大海洋）		
4. 総合討論	座長：植原量行（東海大海洋）	16:40-17:00

開催趣旨：駿河湾の海況やその変化を明らかにすることは、シラス漁業，サクラエビ漁業を代表とする駿河湾の漁業にとって極めて重要であることが古くから認識されてきた。これらの漁業を持続させるために，駿河湾の海況モニタリングはこれからも重要であり続けるであろう。これまで静岡県水産技術研究所の定期的な観測努力によって，駿河湾の季節スケールにおける3次元的な水温分布・塩分分布に代表される海況とその変化が明らかにされてきた。今後もこの観測は重要であるが，現在のところ，駿河湾全体の海況をモニタリングする観測体制が海上大気観測を含めて時空間的に十分な解像度で構築されているわけではなく，海底湧水を含む陸からの淡水流入プロセスや外洋水の流入出プロセスなど未だ不明なことが多い。このことは，駿河湾の生物生産のプロセスに決定的に重要な物質循環についても多くが不明であることを示唆している。以上に鑑み，今後，駿河湾でどのような観測をすることによって，どのようなことを明らかにする必要があるのか議論したい。